

千葉県における年平均気温などの変化と将来予測

2026年1月29日
銚子地方気象台



気象庁マスコットキャラクター
はれるん～千葉バージョン～

人間の産業経済活動の活発化に伴い、温室効果ガス（二酸化炭素など）が多く排出されており、地球温暖化の進行とみられる気候変動により、世界や日本で異常気象が多く発生している。そこで近年、農業に密接にかかわる気温がどのように変化しているのかといった現状を理解いただいたうえで、今後の予測や気象情報の活用にも触れる。

- 関東甲信地方の最近の気温と2025年夏の千葉の気温の状況
- 2025年夏の顕著な高温と7月の少雨の要因
- 言葉の定義と気候を変動させる要因
- 世界・日本・千葉県の主な観測地点における観測事実
- 千葉県の年平均気温の将来の予測
- 極端な気象や異常気象に備えるための気象情報の活用
- デジタルアメダスアプリの紹介



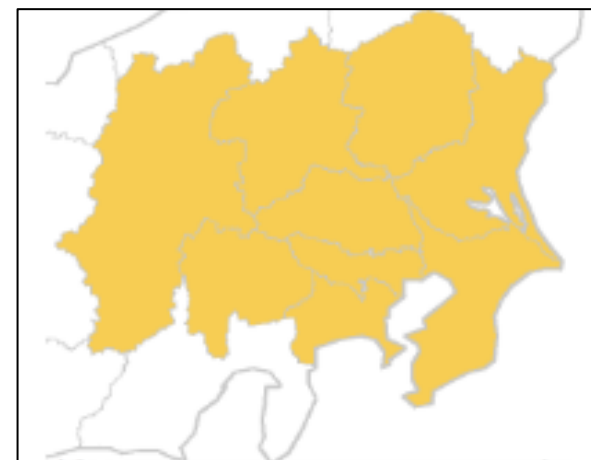
平均気温平年差（統計1946年～）

左表：6～8月 右表：7～9月

年	関東甲信	極値 順位
2025	+2.4	1位
2024	+1.8	2位
2023	+1.8	3位
2022	+0.9	7位
2021	+0.4	
2020	+0.7	9位
2019	0.0	
2018	+1.3	4位
2017	+0.3	
2016	+0.2	

年	関東甲信	極値 順位
2025	+2.5	2位
2024	+2.6	1位
2023	+2.5	3位
2022	+1.0	6位
2021	0.0	
2020	+0.6	
2019	+0.6	
2018	+1.0	7位
2017	+0.1	
2016	+0.4	

※関東甲信地方：
東京都、栃木県、群馬県、
埼玉県、茨城県、千葉県、
神奈川県、長野県、山梨県



かなり低い 低い 平年並 高い かなり高い

2025年6～9月の千葉の毎月の平均気温、平年差と3か月の平年差

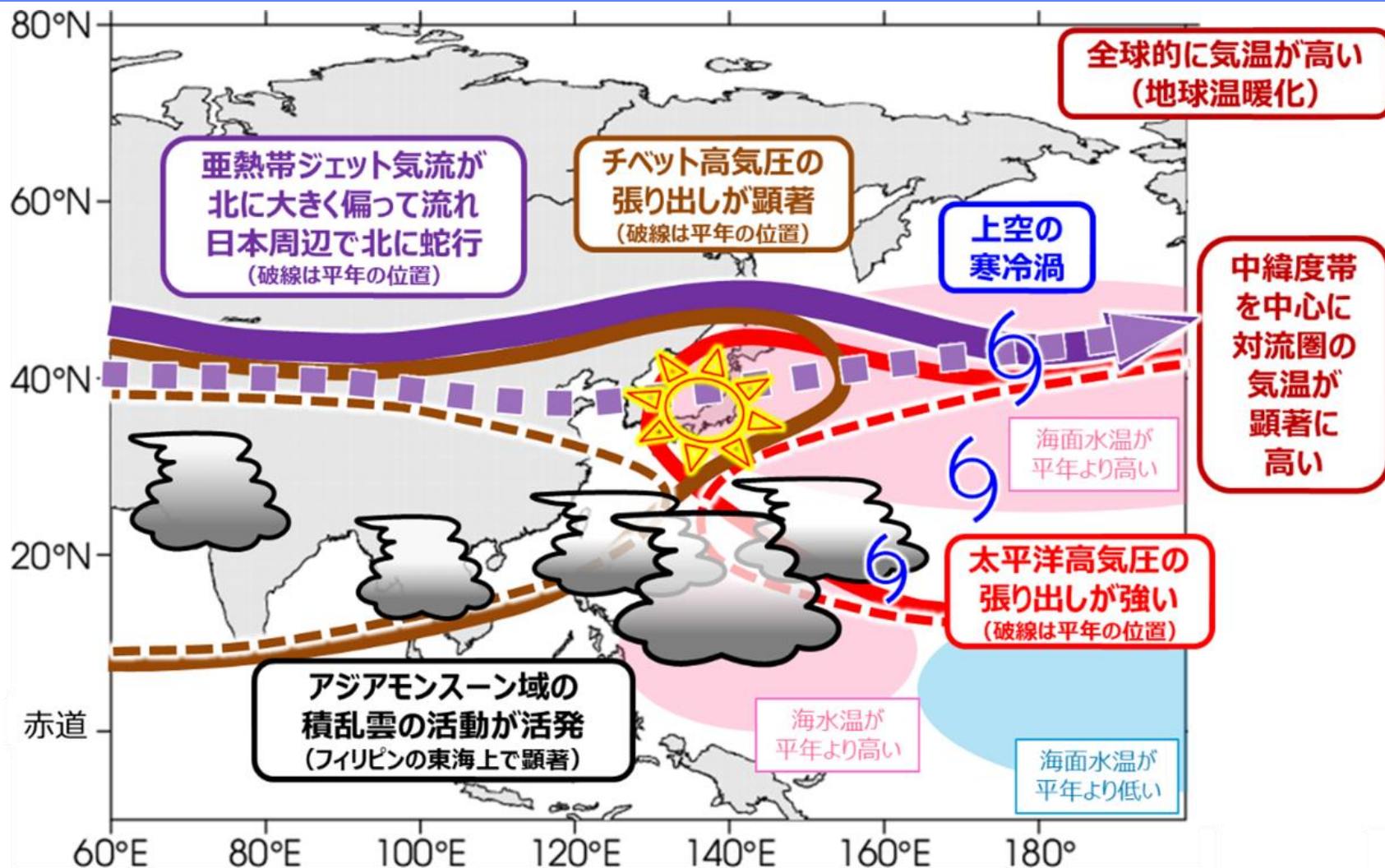
要素／月	6月	7月	8月	9月	6～8月	7～9月
月平均気温（観測値）	24.8	28.2	29.5	26.8	27.5	28.2
月平均気温（平年値）	21.9	25.7	27.1	23.8	24.9	25.5
平年差	+2.9	+2.5	+2.4	+3.0	+2.6	+2.7

かなり低い	低い	平年並	高い	かなり高い
-------	----	-----	----	-------

千葉の観測史上1～3位の値（6～9月の月平均気温高い方から）

要素／順位	1位	2位	3位	統計期間
6月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	24.8 (2025/6)	23.5 (2023/6)	23.4 (2020/6)	1966年6月 2025年6月
7月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	28.8 (2024/7)	28.3 (2023/7)	28.2 (2025/7)	1966年7月 2025年7月
8月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	29.5 (2025/8)	29.4 (2023/8)	29.2 (2024/8)	1966年8月 2025年8月
9月の月平均気温の高い方から(°C) 年月	27.1 (2023/9)	27.0 (2024/9)	26.8 (2025/9)	1966年9月 2025年9月

2025年夏の顕著な高温と7月の少雨の要因



気象庁異常気象分析検討会資料より

上空の偏西風の蛇行や高気圧の強まりなど、その時の大気の状態が普段と大きく異なることが直接的な引き金。ただ、同じ大気の状態でも、地球温暖化の進行とともに、異常気象の「起こりやすさ」や「強さ」が変化する。

気候：十分に長い時間で「平均した大気の状態」

気候変動：自然変動や地球温暖化が原因となって、もたらされる気温や降水量の変化

異常気象：過去に経験した現象から大きく外れた現象（普段の天候とはかけ離れた極端な気象）のこと。大雨や暴風等の激しい数時間の気象から、数か月も続く現象を含む。気象庁では、気温や降水量などの異常を判断する場合、原則として「30年に1回以下で発生する現象」と定義

気候変動の主な要因

気候システム*内の変動
(自然の揺らぎ)

内部変動

エルニーニョ・ラニーニャ
現象 など

*気候システム：大気、海洋、地表面、雪や氷、海洋、生態系などの要素から構成され、それぞれの要素の間でエネルギー、水、物質をやりとりすることによって複雑に相互作用をする総合的な仕組みのこと

外部からの強制

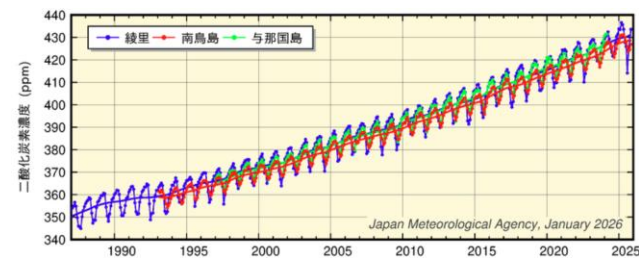
自然的要因

火山の噴火
太陽活動の変動 など

人為的要因

二酸化炭素濃度の変化、森林破壊など土地利用の変化 など

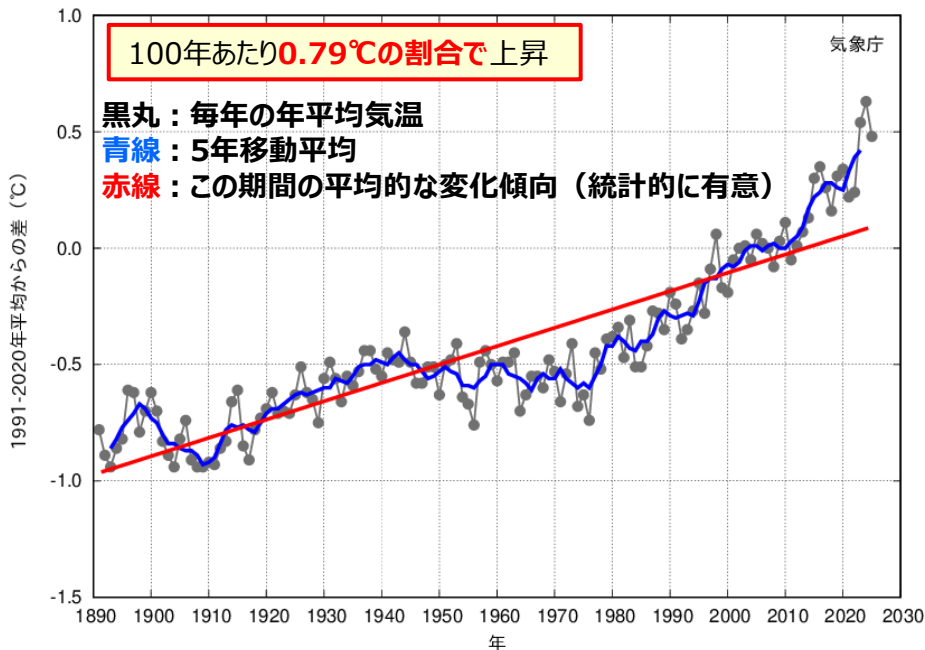
2024年の大気中二酸化炭素の世界平均濃度は、423.9ppmとなっており、工業化以前（1750年）の平均的な値とされる約278ppmと比べて、52%増加している。



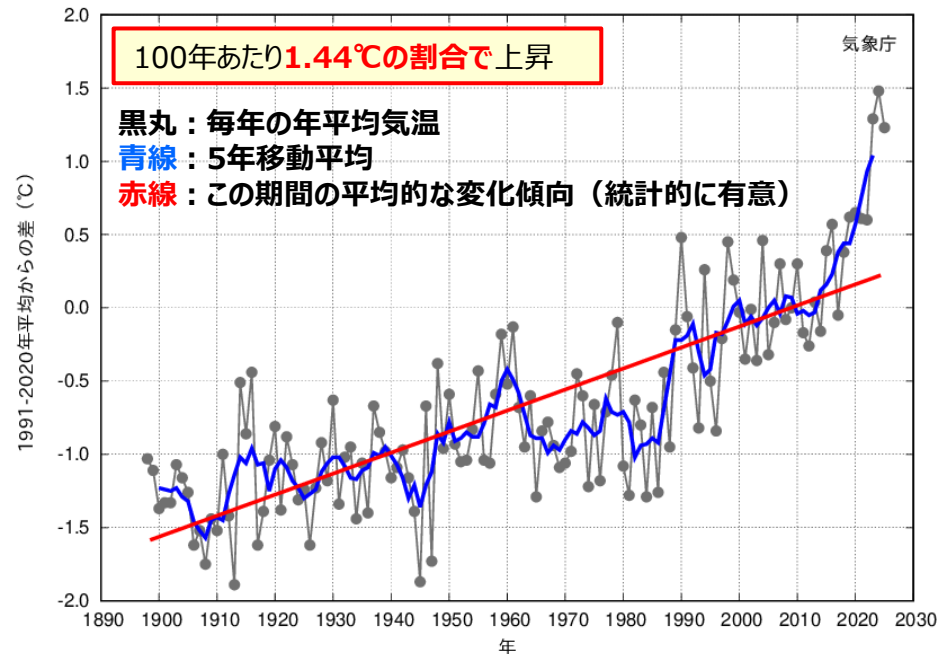
世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり0.79℃の割合で上昇している。特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっている。

日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.44℃の割合で上昇している。特に1990年代以降、高温となる年が頻出している。

世界(※1)の年平均気温偏差の変化(1891~2025年)



日本(※2)の年平均気温偏差の変化(1898~2025年)



(※1) 1880~2010年までは、米国海洋大気庁が世界の気候変動の監視に供するために整備したデータを主に使用し、使用地点数は年により異なるが、約300~4,800地点。2011年以降は、気象庁に入電した月気候気象通報のデータを使用し、使用地点数は約2,300~2,600地点。

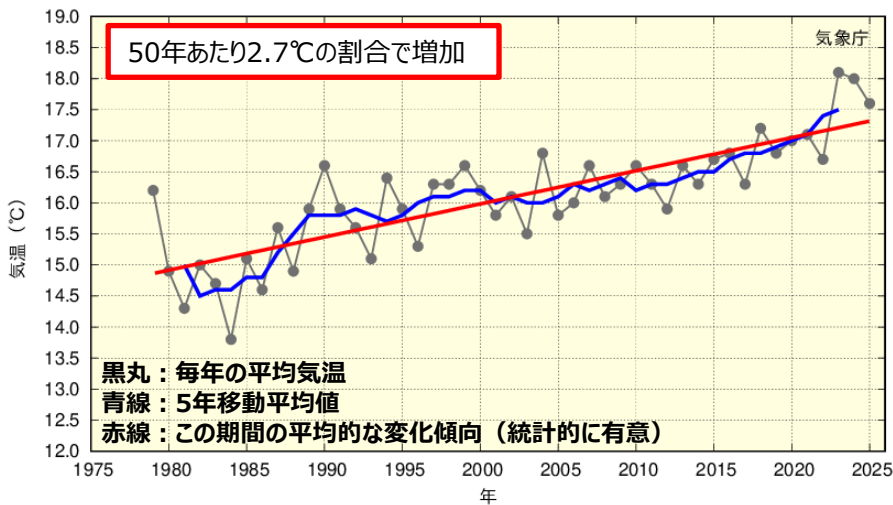
(※2) 日本の年平均気温の算出には、1898年以降観測を継続している気象観測所の中から、都市化による影響が小さく、特定の地域に偏らないように選定された15地点が選ばれている。

15地点の内訳：網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、**銚子**、境、浜田、彦根、多度津、宮崎、名瀬、石垣島

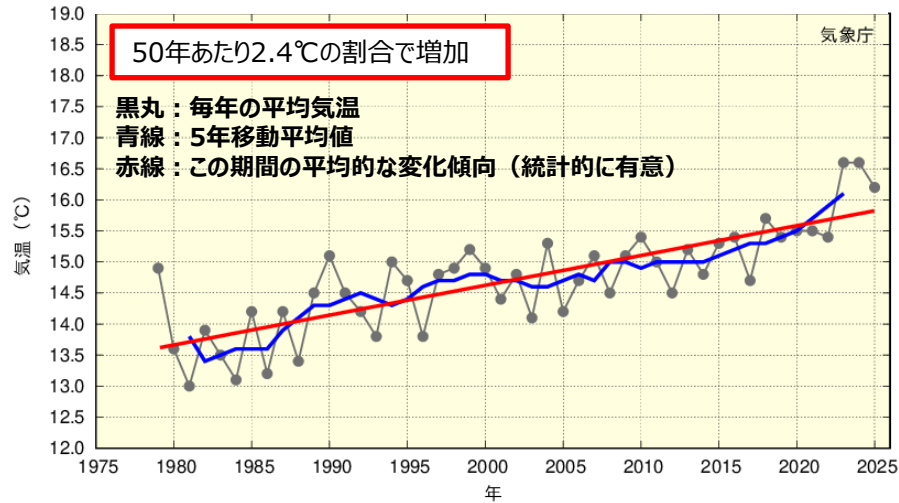
年毎の気温の変動には、毎年の変動だけでなく、数年、十年程度、数十年、もっと長い変動が含まれている

年平均気温は、県内すべての観測所で様々な変動を繰り返しながら上昇している。長期的には千葉で50年あたり2.7℃、佐倉で50年あたり2.4℃、横芝光で50年あたり2.3℃、銚子では50年あたり2.2℃の割合で上昇している。なお、都市域では都市化の影響を受けている可能性がある。

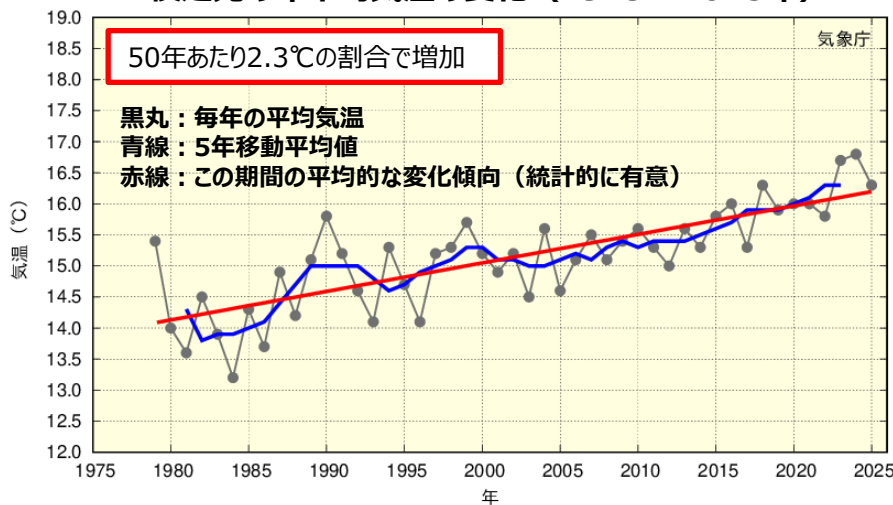
千葉の年平均気温の変化（1979～2025年）



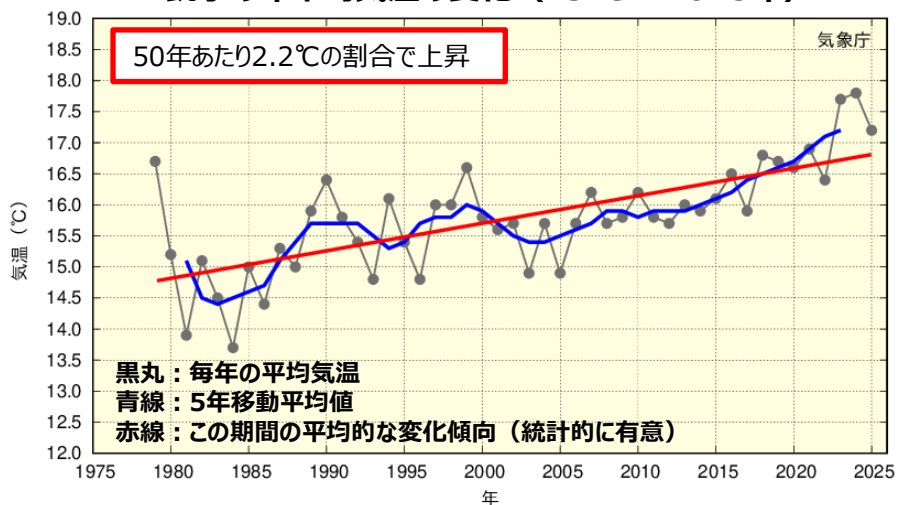
佐倉の年平均気温の変化（1979～2025年）



横芝光の年平均気温の変化（1979～2025年）



銚子の年平均気温の変化（1979～2025年）



前頁の観測所において、月平均気温の上昇量※をみると観測地点によって、多少相違はあるが、

- ・2月～3月、7月～9月で上昇傾向がハッキリしている。
- ・一方、12月～1月は上昇傾向はあまりハッキリしない。

	冬		春		夏			秋				
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
千葉	1.5	1.8	2.5	3.9	2.5	2.5	2.7	3.9	3.1	3.1	2.4	2.5
佐倉	1.1	1.3	2.1	3.4	2.2	2.3	2.6	4.0	3.1	2.8	1.9	1.8
横芝光	1.1	1.4	2.2	3.5	2.4	2.2	2.4	3.3	2.6	2.6	2.1	1.9
銚子	—	1.0	1.9	3.3	2.4	2.3	3.1	3.3	2.5	2.3	1.9	1.9

単位：℃

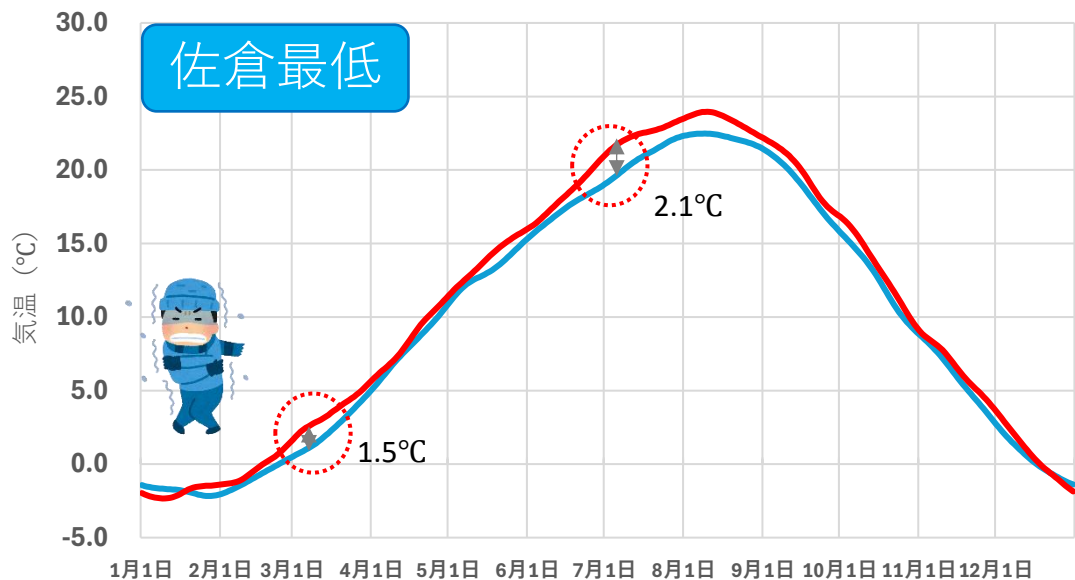
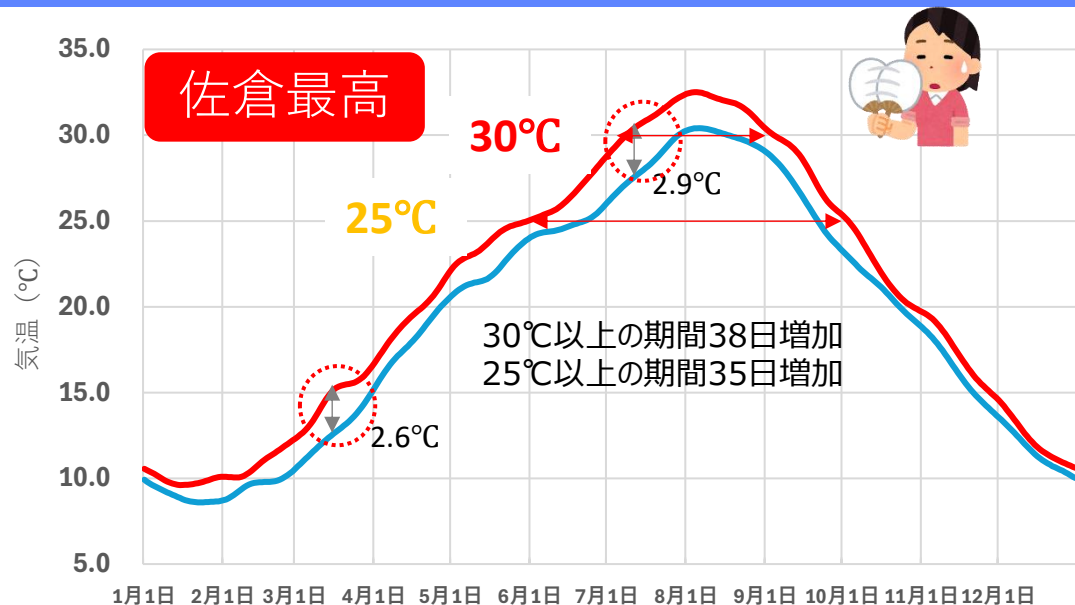
統計期間：1979年から2025年

—：変化傾向はみられない

※：50年あたりの上昇量

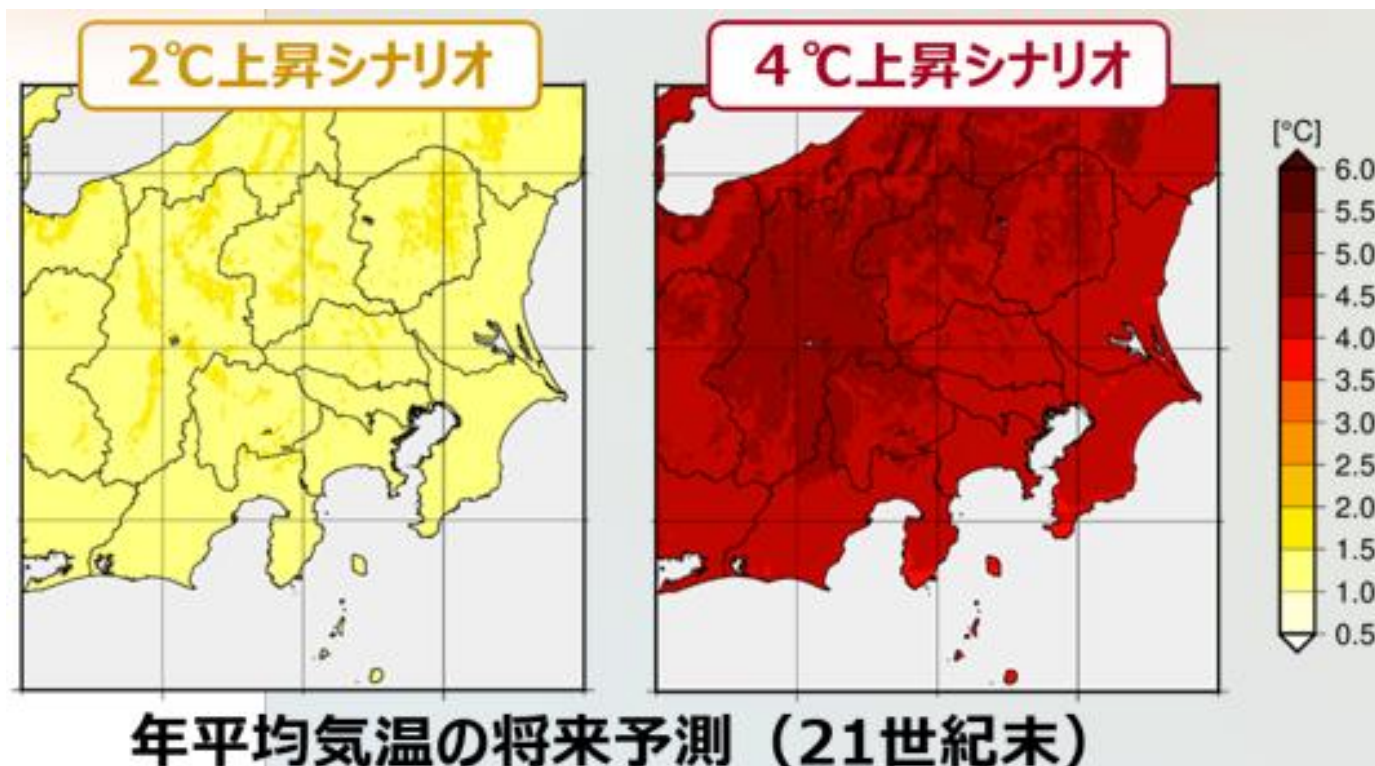
晩冬から初春と梅雨期に季節を先取りするように昇温。真夏日の期間は増加し気温も上昇しており、夏はより暑く、長くなっている。

最高気温ほどの顕著上昇は見られないが、夏と春先で上昇量が大い。真冬の寒さは変わっていない。



千葉県年平均気温の将来予測において、「2℃上昇シナリオ」で約1.3℃、「4℃上昇シナリオ」で約4.1℃上昇する予測となっている（ともに千葉県平均。下図参照）。

現時点での千葉の年平均気温の平年値は、16.2℃である。21世紀末に4.1℃上昇とした場合、現在の鹿児島県の種子島の年平均気温（平年値19.8℃）に相当する気温になる。



※RCP2.6シナリオ「2℃上昇シナリオ」：
将来の世界平均気温が、工業化以前（1850～1900年）と比べて約2℃上昇することが想定されているシナリオ
パリ協定の2℃目標が達成された世界に相当

※RCP8.5シナリオ「4℃上昇シナリオ」：
将来の世界平均気温が、工業化以前（1850～1900年）と比べて約4℃上昇することが想定されているシナリオ
追加的な緩和策を取らなかった世界に相当

- 気象情報の精度を考慮し段階的にシームレスに発表
- 顕著現象を考慮した様々な気象情報・気象データを提供
- 様々な気象リスクの回避・軽減に貢献



雨雲の動き (ナウキャスト)



今後の雨 (降水短時間予報)



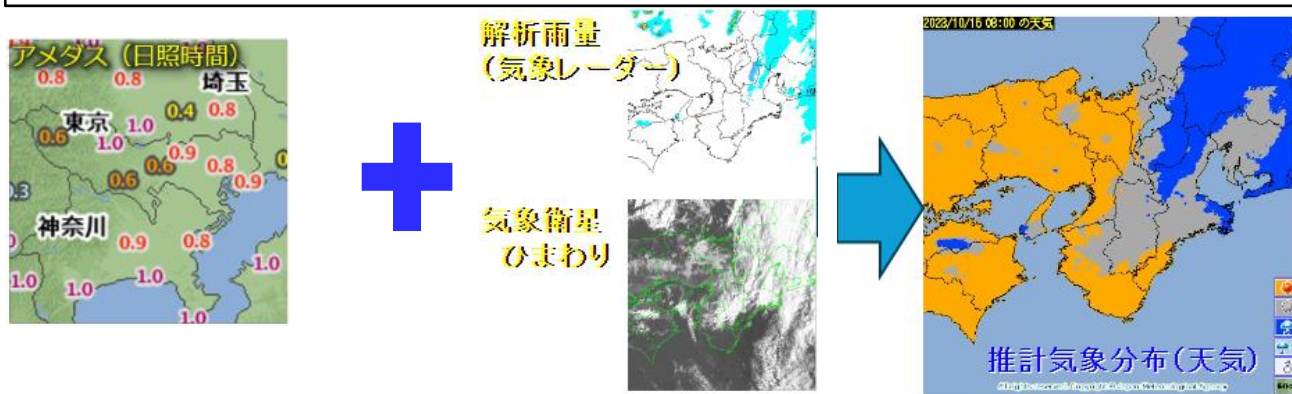
キキクル (危険度分布)



台風情報



面的気象情報の格子ごとの数値をもとに、全国の任意の地点における降水量や気温、天気といった気象状況を具体的な数値として表示することができるツール。



全国約1300地点（約17km間隔）に設置されているアメダス（地域気象観測システム）に、気象レーダーや気象衛星などの観測を組み合わせ、1 km²で解析したデータを利用している。地図から知りたい地点を選ぶと、現在の天気、気温、風、日照時間、降水量などを表示できる。また、翌日までの予測や年初からの積算気温、降水量、日照時間なども見られる他に雷注意報や熱中症警戒アラートなどの通知機能を備えている。

詳細は、以下銚子地方気象台ホームページピックアップ情報から確認できる。
<https://www.data.jma.go.jp/choshi/>



アプリの画面

- 世界・日本・千葉県内の気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇している。特に1990年代以降、高温となる年が頻出している。
- 近年、夏の高温が顕著。2022年以降、毎年かなりの高温。3月と7月を中心に気温の上昇量は大きい。一方、最低と最高では最高気温の方が上昇量が大きく、真冬の寒さは変わっていない。夏はより暑く、長くなり、残暑も厳しい。
- 年平均気温の将来予測は、長期的に気温は上昇する予測である。千葉県の年平均気温は20世紀末と比べて21世紀末には、4℃上昇シナリオでは、現在の鹿児島県種子島と同じくらいの気温になる予測。
- 極端な気象現象や異常気象に備えるために、リスク軽減の一つとして、気象情報の正しい理解と積極的な活用を！
- デジタルアメダスアプリも試してほしい。